

土木学会関西支部関西支部への支援依頼

本校は八尾市西端に位置し、周囲は工場や住宅地等で「地層等」実際に観察することは困難な状況でした。何よりも本物との出会い(もの・人)こそが子どもの学習意欲を高めることと考えていました。

そんなおり土木学会関西支部のHPに学習支援のページを見つけることができ、だめもとで依頼することにしました。事務局の方が快く引き受けてくださり、相談はどんどん進み、大阪市立大学の三田村先生に来校していただいたの授業、そして野島断層近辺でのフィールドワークや震災記念館でのガイドまで担当していただくことができました。

子どもたちは、三田村先生からの写真ではなく実物(沖積層の粘土や岩石)を使った授業や野島断層現地での地層や断層の説明に感動とともに理解を深めることができました。防災学習(総合)とともに地域の方への発表会を行いました。今回の学習は土木学会関西支部の支援を全面的に受けることができ本当に実のある学習となりました。以下に学習の概略を紹介します。

総合学習活動概略(理科との教科横断)

1. 単元名 『大地と共に生きる私たち』

2. 単元目標

身の回りの土地を観察したり資料で調べたりして、大地のつくりや構成物や地層のでき方についてとらえることができる。

地震活動による土地の変化や災害について調べ、まとめることができる。

地震を乗り越え生きる人々の力強さや優しさにふれたり、被災者支援のために尽力された方々と出会い、人間の素晴らしさを感じる。そして自分にできることを考えることで周りの人々への優しい心を育む。

3. 指導にあたって

実物との出会いを大切に、導入でのフィールドワークを位置づけること。

導入やフィールドワークに専門家の先生に来ていただき授業をしていただくこと。

人と防災未来センターでの震災体験者との出会い、また被災者支援のために尽力された方々との出会いの場をできる限り多く設ける。

4. 指導の計画 (: 大阪市大学 三田村先生との学習)

次	学 習 活 動	
第1次 (3時間)	・身近な大地の様子を観察し、大地の下の様子を予想する。(動機付けの学習) (10月6日 木)	
	・フィールドワーク(野島鍾乳洞、野島断層)で岩石、地層、断層の様子を観察し、大地のようすや土地の変化、地震活動に興味を持つ。 ・人と防災未来センターで阪神淡路大震災の様子を知り、震災体験者への聞き取り学習を通して地震の恐怖、乗り越えて生きる人々の力強さを知る。 (10月12日 水)	
	・わかったことや疑問に思ったことを交流し、学習課題や解決方法を考える。	
第2次 (理科1時間)	理科分野	総合学習分野
	・自分の課題について調べたり、観察・実験をする。	・震災を乗り越えた人々や被災者救援に尽力した人々と出会い、「生きる」ことについて考える。 阪神高速の方から防災技術の聞き取り 当時の小学生や学校の様子を調べる (神戸 高瀬先生からの聞き取り) 100時間ろうそくへの思いの聞き取り (八尾市の(株)クレバー山本社長)
	・報告会をする。	
	・学習のまとめをする。	・学習のまとめをする。

5. 三田村先生との学習概略

< 1. 大地のつくりについて > (亀井小学校) 10月6日(木)

じぶんたちの足の下(地下)にも地層が存在するのか。
 亀井小の地下には(ボーリング資料、化石等)
 大地が揺れると 地震との関連

< 2. フィールドワーク > (淡路島等) 10月12日(水)

地層、路頭の巡検、化石探し
 地震の様子とメカニズムについて (野島断層保存記念館)

7:15 学校出発
 9:30 野島鍾乳洞近くでのフィールドワーク(90分)
 11:00 野島断層保存館着、昼食
 11:30 野島断層保存館見学(90分)
 13:00 淡路島出発
 14:00 人と防災未来センター着、見学
 15:30 出発
 16:30 学校着、解散

以上